

# 徳島県で採取出来る薬用植物の手引

徳 島 県

薬用植物は、和名 50 音順に配列し、県内産※433 種(うち毒草 27 種)、県内に少ないもの△ 27 種を登載した。

なお、薬用植物の使用にあたっては、用法・用量のあやまりのなき様に留意すること。

植物和名	生薬名	薬用部	科名	参考	薬効
※ アイ	藍葉 藍実	葉 子実	た で 科	畑地に栽培一年草	毒虫の刺傷, 解毒, 解熱
※ ア オ キ	青 木	葉	み ず き 科	山野に自生, 常緑灌木	火傷, 創傷, 腫物
※ アオツツラフジ	木 防 己	根, 木部	つづらふじ科	山野に自生	利尿薬
※ ア カ ネ	茜 根	根	あ か な 科	山野に自生, 宿根草	通経, 強壯, 解熱, 止血 (咯血, 吐血, 血尿)
△ アカヤジオウ	地 黄	根 茎	ごまのはぐさ科	中国原産, 宿根草	補血, 強壯, 止血
※ アカメガシハ		樹 皮	とうだいぐさ科	各地に自生	胃癌(民間)
※ アカツメクサ		花 穂	ま め 科	多 年 草	祛痰, 体質変換薬
※ ア カ ザ		茎 葉 果 実	あ か ざ 科	各地に自生	解毒, 強壯
※ ア カ マ ツ	松 脂	樹 脂	ま つ 科	常 緑 喬 木	硬膏製造原料
※ アキカラマツ		全 草	きんぼうげ科	宿 根 草	苦味健胃薬
※ アキノキリンソウ		花, 茎, 葉	き く 科	宿 根 草	腎臓病, 膀胱疾患(民間)
※ アキノタムラソウ		全 草	し そ 科	山野に自生	収斂, 止瀉
※ ア ケ ビ	木 通	木 部	あ け び 科	山野に自生	利尿薬
△ ア サ	大 麻	未熟の花穂を あびる枝端	く わ 科	印度原産一年草 繊維植物	鎮痙, 鎮痛, 麻醉薬, 催眠
※ ア ザ ミ		根, 葉	き く 科	各地に自生, 宿根草	脚気(民間)
※ ア サ ガ オ	牽牛子	種 子	ひるがお科	蔓性一年草	峻下薬
※ アサクラザンショウ	山 椒	果 実	み か ん 科	落 葉 灌 木	芳香薬
※ アサマリンドウ		根, 根茎	りんどう科	宿 根 草	苦味健胃薬
※ ア シ	蘆 根	根 茎	い ね 科	自生多年草	嘔吐
※ ア ジ サ イ	紫陽花	花	ゆきのした科	庭園, 落葉, 灌木	解熱

備	考
魚, きのこの中毒に葉10gを煎じて飲む。痔の痛むとき葉のせんじ汁で腰湯をするか, 温湿布するとよい。やけど, 虫刺されに生葉の汁をつける。精力減退に実5gをせんじて飲む。月経不順に全草を煎じてのむ。丹毒に葉をせんじてのむ。	魚, きのこの中毒に葉10gを煎じて飲む。痔の痛むとき葉のせんじ汁で腰湯をするか, 温湿布するとよい。やけど, 虫刺されに生葉の汁をつける。精力減退に実5gをせんじて飲む。月経不順に全草を煎じてのむ。丹毒に葉をせんじてのむ。
葉をやけどに用いる。切り傷に生の葉を酢で煮てゴマ油を入れその汁をつける。痔に生葉100枚とハッカの葉100gを2ℓの水で半量までせんじ温湿布する。葉を黒焼きにしこれをクズ湯でのむと便通によい。葉を2枚にはがしおへそにはると利尿。	葉をやけどに用いる。切り傷に生の葉を酢で煮てゴマ油を入れその汁をつける。痔に生葉100枚とハッカの葉100gを2ℓの水で半量までせんじ温湿布する。葉を黒焼きにしこれをクズ湯でのむと便通によい。葉を2枚にはがしおへそにはると利尿。
水腫, 淋疾に1日約4g煎用する。	水腫, 淋疾に1日約4g煎用する。
通経に実10g又は根10gをせんじてのむ。咯血, 吐血, 血尿の止血薬に根をせんじる。根を強壯薬とする。根を心臓病や浮腫のあるときに用いる。打撲に全草を浴湯料にする。	通経に実10g又は根10gをせんじてのむ。咯血, 吐血, 血尿の止血薬に根をせんじる。根を強壯薬とする。根を心臓病や浮腫のあるときに用いる。打撲に全草を浴湯料にする。
根はマンニット及び糖を含有す。1日10g煎用する。子宮出血に5~10g煎用する。	根はマンニット及び糖を含有す。1日10g煎用する。子宮出血に5~10g煎用する。
葉100gを水1ℓで煎じこれを半量にせんじ1日3回に分服するとはれものによい。痔に皮の黒焼を酒でのむ。湿疹に生汁をつける。乳腺炎に葉の煎汁で温湿布するとよい。灸のあとのただれに葉をやいたものを用う。	葉100gを水1ℓで煎じこれを半量にせんじ1日3回に分服するとはれものによい。痔に皮の黒焼を酒でのむ。湿疹に生汁をつける。乳腺炎に葉の煎汁で温湿布するとよい。灸のあとのただれに葉をやいたものを用う。
花穂を乾燥し1日4gを煎剤とする。	花穂を乾燥し1日4gを煎剤とする。
生汁で歯痛が楽になる。全草を乾燥し煎じ汁を口にふくんでもよい。小児の湿疹に黒焼としたものをゴマ油でねって患部にはる。高血圧, 脳出血に全草を乾燥したもの1日20g煎じてのむ。虫さされに生汁をつける。咳止20g煎じる。	生汁で歯痛が楽になる。全草を乾燥し煎じ汁を口にふくんでもよい。小児の湿疹に黒焼としたものをゴマ油でねって患部にはる。高血圧, 脳出血に全草を乾燥したもの1日20g煎じてのむ。虫さされに生汁をつける。咳止20g煎じる。
多量のピネンを含有し合成樟脳の原料とする。	多量のピネンを含有し合成樟脳の原料とする。
全草を1日10g内外煎用する。	全草を1日10g内外煎用する。
全草15~20gを煎じて利尿作用あり, 腎臓膀胱疾患によい。	全草15~20gを煎じて利尿作用あり, 腎臓膀胱疾患によい。
全草を1日15g内外を煎用する。	全草を1日15g内外を煎用する。
突き目に実を乾して粉末とし煎じる。浮腫利尿減少に蔓又は根を10~20g煎用, 淋疾膀胱炎に煎用又は実を黒焼として服用する。月経不順, 血の道, 頭痛に蔓20gを煎用する。	突き目に実を乾して粉末とし煎じる。浮腫利尿減少に蔓又は根を10~20g煎用, 淋疾膀胱炎に煎用又は実を黒焼として服用する。月経不順, 血の道, 頭痛に蔓20gを煎用する。
便秘, 利尿減少, 乳汁不足, 月経不順, やけど, 実をつぶし10g煎用すると便秘によく効く。月経不順には実5gと桃仁5gを煎用する。	便秘, 利尿減少, 乳汁不足, 月経不順, やけど, 実をつぶし10g煎用すると便秘によく効く。月経不順には実5gと桃仁5gを煎用する。
4~6月根を水洗後陽乾する。1日10g煎用する。利尿によい。	4~6月根を水洗後陽乾する。1日10g煎用する。利尿によい。
虫さされに生葉の汁をつける。又塩でもんでつける。種子を粉にし1日0.3~0.5gを水で服用すると通じによい。水にとけない成分なので粉末で用いること。	虫さされに生葉の汁をつける。又塩でもんでつける。種子を粉にし1日0.3~0.5gを水で服用すると通じによい。水にとけない成分なので粉末で用いること。
香辛料, また回虫駆除に5g煎用。	香辛料, また回虫駆除に5g煎用。
リンドウに準じる。	リンドウに準じる。
嘔吐を鎮むる効あり煎剤とする。	嘔吐を鎮むる効あり煎剤とする。
葉又は花を10g煎用すると解熱の効あり。鎮静薬	葉又は花を10g煎用すると解熱の効あり。鎮静薬

植物和名	生薬名	薬用部	科名	参考	薬効
※ アズキ		種子	まめ科	栽培一年草	消炎, 利尿, 緩下薬
毒※ アセビ	馬酔木	茎葉	つつじ科	山地自生	殺虫
※ アゼムシロ		根茎	ききょう科	自生	リウマチ(内), 解毒(外)
※ アマ	亜麻仁	種子	あま科	栽培一年草	アマニン油原料
※ アマナ		鱗茎	ゆり科	原野に自生, 多年草	滋養, 強壮薬
※ アマチヤ		葉	ゆきのした科	落葉灌木	矯味料
※ アマドコロ	イ菱ズイ	根茎	ゆり科	宿根草	強壮薬
※ アミガサユリ	バイモ貝母	鱗茎	ゆり科	畑地に栽培	鎮咳, 祛痰
※ アメリカヤマゴボウ		根	やまごぼう科	宿根草	利尿薬
※ アメリカアリタソウ		全草	あかざ科	宿根草	ヘノボジ油原料(駆虫)
※ アベマキ	アベマキ皮	コルク皮	ぶな科	落葉喬木	コルク製造原料
△ アラビアゴムノキ	アラビアゴム	樹脂	まめ科	北アフリカ原産	カタル性疾患
※ アリドウシ		根, 果実	あかね科	山地に自生, 常緑灌木	リウマチス, 水腫(民間)
※ アンズ	キョウニン杏仁	種子	ばら科	各地に栽培, 落葉喬木	鎮咳, 祛痰
※ イ	燈心草	地上部	いぐさ科	湿地に自生, 多年草	脚気水腫の利尿, 解熱薬
※ イカリソウ	インヨウカ淫羊藿	茎葉	めぎ科	多年草, 自生	補精, 強壮薬
毒※ イケマ	牛皮消根	根	かがいも科	宿根草	利尿薬
※ イタドリ	コショウコン虎杖根	根	たで科	宿根草, 自生	鎮静薬(民間), 通経, 利尿, 緩下
※ イチイ	一位ヨウ葉	葉	いちい科	常緑喬木	利尿, 通経(民間)
※ イチハツ	鳶尾根	根	あやめ科	中国原産, 植栽	吐剤, 下剤

備	考
	浮腫，腎炎ネフローゼなどの浮腫に塩も砂糖も用いず煮て主食がわりに食べると尿量が増し，浮腫がとれる。二日酔に吐きけのあるとき煎汁をのむとよい。1日20～30g煎剤。
	茎葉の煎汁は牛馬の皮フ寄生虫，農作物の害虫駆除薬とする。生葉の10倍量の水で煎じ更に10倍にうすめて使用する。
	リウマチに1日10gを煎用し，解毒に汁を外用する。
	種子から油をとり軟膏の基礎剤又，クレゾール石鹼原料。
	煎用する。
	矯味薬とする。糖尿病患者の甘味料とする。甘味成分フィロズルチン
	打撲に根茎の生汁をつける。又乾燥したものを煎じその液を湿布する。胎毒に根茎の生汁をつけると即効がある。衰弱，寝汗，脳出血で体力の衰えている者に根茎1日10gを煎用する。
	るいれきに乾燥した根茎1日10gを煎じてのむ。乳汁不足に1日3gを煎じてのむ。たむしに生根をつぶして酢でねって患部にはる。
	根を10g煎用すると利尿によい。
	十二指腸虫，蛔虫，便虫，線虫に0.2～1.0g服用後下剤を用う。
	コルク板等の製造に供す。
	結合剤
	1日15g内外を煎用する。
	せき止に杏仁5g，麻黄3g，甘草2gを煎じて服用する。外耳道炎に杏仁をすりつぶしてガーゼにつつま耳の中に入れておく。声がれのとき杏仁4g，麻黄3g，甘草2g，ミカン皮2gを煎じ服用す。
	茎の乾燥したものを10gを煎じ服用すると尿の出がよくなり浮腫によい。不眠症は鎮静の効あり，お茶がわりに用いる。打撲で痛むもの，切り傷で出血するものに生の茎をかみ砕いてつけるとよい。
	歯痛，全草をせんじて口にふくんでいとよい。中風，健忘症に全草を乾燥したものを10～15gを煎じてのむとよい。又，酒につけておいても良い。
	1日用量3～6g煎用
	根を煎じると利尿の効あり，1日20g産後の浮腫，1日10gを煎用すると便通によい。消化不良，胃弱，胃腸の弱い人は根を5gを1日分として煎用する。
	1日10～20gを煎じ尿の出がよくなる。葉を煎じて服用する。
	民間薬として吐剤，下剤に用いる。

植物和名	生薬名	薬用部	科名	参考	薬効
※ イチョウ	銀杏	種子	いちょう科	落葉喬木	鎮咳
※ イチャクソウ	鹿蹄草	全草	いちやくそう科	自生, 多年草	切創, 毒虫の咬傷, 脚気
※ イチヂク	無花果	葉, 擬果	くわ科	落葉小灌木	緩下, 貧血, 健胃
※ イヌガヤ		種子, 油	いぬがや科	常緑	理髪料
毒※ イヌホオズキ	龍葵	果実	なす科	山野に自生, 一年草	解熱, 利尿, 強壯, 鎮痛
△ イヌサフラン		種子	せり科	宿根草	コルヒチン原料
※ イヌザンショウ	崖椒	果実	みかん科	自生	乳腫, 鎮咳薬
※ イヌタデ		茎葉	たで科	自生, 一年草	皮膚病, 解毒, 駆虫
※ イヌツゲ		葉	もちのき科	灌木	利尿剤
△ イノンド	蒔蘿実	果実	せり科	印度の原産1~2年草	駆風, 健胃
※ イノコズチ	牛膝	根	ひゆ科	自生, 宿根草	収斂, 利尿, 強精, 通経
※ イブキトラノオ	拳参	根茎	たで科	自生, 宿根草	収斂剤(民間)
※ イブキジャコウソウ		全草	しそ科	自生, 多年草	賦香料
※ イボタノキ	イボタロウ	蠟	もくせい科	落葉灌木	止血, 強壯
※ イラクサ		生薬汁	いらくさ科	自生	虫毒の解毒
※ イワヒバ		全草	いわひば科	自生	脱肛, 利尿
※ イワタバコ	岩じしゃ	葉	いわたばこ科	自生, 宿根草	収斂, 健胃
※ ウイキョウ	茴香	果実	せり科	自生又は栽培多年草	健胃, 駆風, 祛痰
※ ウキヤガラ	三稜	塊根	かやつりぐさ科	温地に自生	鎮痙, 通経, 催乳
※ ウコギ	五加皮	根皮	うこぎ科	自生, 落葉灌木	強壯, 強精

備	考
	せきに実を焼いて食べるか煮て食するとたんの切れをよくする。実は滋養強壯の効。
	生汁のもので出血をとめる。乾燥した全草15gを1日分とし煎じてのむと肺結核によい。生汁は毒を消す効あり。膀胱尿道炎に利尿に効あり。
	痔・実を1日3～4個煎じ、又葉の白い汁をとって患部につける。腰湯をするもよい。浄血によい。緩下に用量3g。
	楸実の代用で十二指腸虫駆除薬とする。
	全草を煎じた液でタムシに外用する。毒草なので注意すること。
	特に種子、茎葉に多い痛風薬の製造原料とする。
	うるしかぶれに生、乾燥葉を煎じた汁で湿布するとよくなる。実を粉末にし小麦粉に酎を加えて患部にはる。むし歯の痛みに実又は根を煎じ汁を口にふくむ。
	全草を煎用すると回虫駆除によい。血の道症に全草を黒焼きにしてのむ。全草を健胃薬とす。生汁は毒虫の解毒に外用する。
	煎用する。
	水蒸気蒸留する。果実はソース、西洋料理に香料とする。
	月経不順に根を10g煎用する。外陰部の炎症に煎汁で洗滌するとよい。
	止瀉の目的で内用す。1日用量6g煎剤又は口内の炎症に含嗽料とする。
	タチジャコウソウの代用とする。鎮咳の効あり。
	強壯薬として内用、止血薬として外用する。
	疼痛、発泡するを以て有害植物として注意を要す。
	全草を1日約8gを煎用する。
	1日7g煎剤、民間で胃癌薬として用いる。
	ウイキョウ精、アンモニアウイキョウセイ、ウイキョウ水
	妊婦に最も禁忌とする。通経、催乳の効は香附子より著し。
	根皮15gを煎用すると不老長寿によい。腰脚痛、茎葉を茶剤として服用する。



植物和名	生薬名	薬用部	科名	参考	薬効
※ ウ コ ン	鬱 金	根 茎	しょうが科	南米原産多年草	吐血, 衄血, 血尿の止血
※ ウスバサイシ ン	細 辛	根および 根茎	うまのすずくさ科	自生, 宿根草	発汗, 解熱, 祛痰
※ ウ ツ ギ		果 実	ゆきのした科	自生, 落葉灌木	鎮咳 (民間)
※ ウツボグサ	夏 枯 草	花 穂	し そ 科	山地に自生, 多 年草	利尿, るいれき
※ ウマノスズク サ	土青木香 馬兜鈴	根, 果 実	うまのすずくさ科	自生, 多年生蔓 草	鎮咳, 祛痰, 虫毒の解毒
※ ウマノアシガ タ		全 草	きんぼうげ科	山野に自生	発泡剤
※ ウ        メ	烏 梅	未熟の 果実	ば ら 科	各地に栽培	解熱, 鎮咳, 祛痰, 止瀉, 駆虫
※ ウ バ ユ リ		鱗 茎	ゆ り 科	宿 根 草	でんぷん原料
※ ウ        ド		全 草	う こ ぎ 科	山地に自生	解熱, 強壯
※ ウラジロガシ		葉	ぶ な 科	自 生	胆石 (民間)
毒 ※ ウ ル シ		汁 液	は ぜ の き 科	落 葉 喬 木	駆虫, 鎮咳, 通経
毒 ※ エ ゴ ノ キ		果 実	え ご の き 科	自 生	洗濯 (有毒)
毒 ※ エ ニ シ ダ	エニシダ 葉	枝 梢	ま め 科	栽培常緑, 灌木	強心, 利尿
※ エ ノ キ		樹 皮	に れ 科	灌 木	食欲増進 (民間)
※ エ ビ ネ		根 茎	ら ん 科	自 生	婦人病
※ エビスグサ	決 明 子	種 子	ま め 科	栽培一年草	緩下, 強壯薬
※ エンレイソウ	延令草根	根 茎	ゆ り 科	自生多年草	胃腸疾患, 催吐
※ オ ウ レ ン	黄 連	根 茎	きんぼうげ科	栽培又は自生	苦味健胃薬
※ オ オ バ コ	車 前 草	全 草 草 子	おおばこ科	自生多年草	利尿, 祛痰, 鎮咳, 止瀉
※ オオツツラフ ジ	漢 防 己	根	つづらふじ科	落 葉 藤 本	鎮痛, 利尿

備	考
用量 8 g 又は粉末を水でねり痔，創傷	
咳嗽，上逆，胸満，脇痛に用う。1 日用量 4 g 煎剤	
1 日 8～10 g を煎じてのむ。	
膀胱炎に花穂 5 g を煎用する。るいれきには茎葉 20～30 g を 1 日量として煎用する。中国漢方雑誌に血圧を下げる作用があることがわかったと書いてあった。	
はれものに生の根を突き砕き，クモの巣に包んで患部にあてる。また生葉をもんで汁をつける。虫毒の解毒には根を乾燥したものを粉末として患部にぬる。月経不順には 1 日 5～8 g の根を煎用。	
汁を外用する。	
未熟の果実をとり果皮をとり煤煙中に埋藏し乾燥したもの 1 日 4 g を用う。	
カタクリでんぷんに代用する。	
全草又は根を 1 日 10～15 g 煎用する。	
乾燥した葉を 1 日 20～30 g を煎用する。	
乾漆は通経，駆虫，鎮咳の効あり。扁桃腺炎には乾漆を火で燻べ烟を吸引。	
新鮮なる果皮を洗濯に用い溪流中に搾汁を流して魚を捕うに用いる。	
1 回 0.01 g，1 日 2～3 回内服	
じんましん，葉をせんじた汁を患部につける。うるしかぶれに葉の煎剤をつける。月経不順に皮 15 g を 1 日量として煎剤とする。	
1 日 5 g を煎用，又は煎液を外用する。	
視力を明らかにする効ありと云う。用量 5～10 g 煎剤	
多量に用いるは害あり。又，馬の病に用いられる。	
健胃薬に 1 日 15 g 煎剤，又はエキスを製造する。	
1 日 5～10 g 煎用。全草中アウクピンを含有。	
利尿，リウマチに 3～5 g 煎用。	

植物和名	生薬名	薬用部	科名	参考	薬効
※ オオハンゲ		球茎	さといも科	宿根草	祛痰, 鎮静
※ オオバメギ		枝の幹材	めぎ科	自生	めぎと同じ
※ オオケタデ	コ草	茎葉, 根	たで科	栽培又は自生	瘡腫, 脚気
※ オオバケクロモジ		根皮	くすのき科	自生	クロモジと同じ
※ オオグルマ	土木香	根	きく科	栽培宿根草	健胃, 祛痰, 駆虫, 利尿
※ オオバショウマ		根茎	きんぼうげ科	自生	サラシナショウマと同じ
※ オクラ		果実	あおい科	栽培一年生	強壯
※ オケラ	瘡求	根茎	きく科	自生, 宿根草	芳香性健胃, 利尿
※ オシダ	錦馬根	根茎	うらぼし科	山地に自生	条虫駆除
※ オシロイバナ		生葉	おしろいばな科	熱帯アフリカ原産	疥癬
※ オトギリソウ	小連翹	全草	おとぎりそう科	宿根草	止血, 神経痛
※ オナモミ	瘡耳子	果実	きく科	自生	解熱, 発汗, 頭痛
※ オニグルミ		種仁	くるみ科	自生	滋養強壯, 鎮咳
※ オニバス	茨実	種子	すいれん科	池沼に自生, 多年草	強壯, 強精薬
※ オミナエシ	敗醬根	根	おみなえし科	自生, 宿根草	利尿性利尿, 浮腫
※ オモト	万年青	根茎	ゆり科	自生又は植栽	強心薬
※ オヤブジラミ		果実	せり科	自生	収斂性消炎
※ オリーブノキ	オリーブ油	果肉	もくせい科	常緑小喬木	オリーブ油原料
※ カキ	柿蒂	果実の萼片	かきのき科	落葉喬木	吃逆止
※ カキドウシ	連銭草	全草	しそ科	路傍に自生	解熱, 利尿, 小児疳症(民間)

備	考
カラスビシャクの代用とする。	
一名ヒロハノヘビノボラス、オオトリトマラス、木部、根皮の煎汁は健胃薬	
全草を1日10g煎用し子宮収縮作用あり。	
根皮の粉末を切傷の止血に用いる。材を妻楊子に用いる。	
1日10g煎用、結核性患者に用い強壯の効ありという。売薬原料とする。	
1日5～15g煎用する。	
果実を食用又は煎剤とする。	
胃下垂症、胃アトニー症に根茎3g、生ショウガ4gを入れ煎用する。利尿減少に5gと茯苓5gを煎用する。神経痛リウマチに5gと漢防已5gを煎用する。殆んど漢方薬原料とされる。	
2日間朝夕4～8gを与え第3日に下剤を用いる。通常錦馬エキスをを用いる。	
生葉の汁を用いる。	
切り傷、打撲、筋骨痛に煎汁で洗うか内服する。疝気、浮腫1日10gを煎用する。漢方では止血、合嗽料。神経痛、リウマチ性疾患、関節炎、腰痛に注射用。	
ハチ刺されに生葉の汁をつけるとよい。歯痛に実を煎じた汁でうがいをする。蓄膿症に実を粉末として1日6～9gをのむ。はれものに茎葉を黒焼として酢でねってはる。	
チョウチグルミ、滋養強壯、鎮咳、皮フ病に用う、代用品	
1日10g煎剤	
瘀血を去る効あり、1日6～10g煎用する。	
強心利尿薬とする。	
ヤブジラミ、婦人の陰腫を治すに外用すの代用品	
注射薬の溶剤に用い軟膏類、薬用石鹼の製造原料	
眼底出血には生の葉5～6枚を煎用し1回にのむ。吃逆止にヘタ10個を煎用する。	
小児の虚弱体質に1日10g煎用、糖尿病、腎臓病に煎用する。強壯薬として1日10g煎剤	

植物和名	生薬名	薬用部	科名	参考	薬効
※ カサモチ	和薬本	根茎	せり科	自生多年草	頭痛, 風邪
△ ガジュツ	莪述	根茎	しょうが科	栽培	芳香性健胃薬
※ カタバミ		新鮮葉	かたばみ科	多年草	疥癬, 諸瘡(民間)
※ カタクリ	カタクリ 澱粉	鱗茎	ゆり科	山地に自生	澱粉製造原料
※ カナビキソウ	土枯 夏草	全草	びゃくだん科	多年草	利尿
※ カニクサ	海金砂	胞子	かにくさ科	自生蔓性	治淋
※ カノコソウ	吉草根	根, 根茎	さく科	多年草	鎮静薬
※ カボチャ	南瓜仁	種子	うり科	栽培	条虫駆除剤
※ ガマ	蒲黄	花粉	がま科	沼地に自生	止血, 利尿
※ カミエビ		根, 木部	つづらふじ科	自生	利尿
※ カミツレ	カミツレ 花	頭状花	さく科	栽培越年草	採暖, 発汗, 駆風, 浴場料
※ カヤ		種子	いちい科	自生	駆虫(12指腸虫)
※ カラスウリ	王瓜 根仁	根, 種子	うり科	自生多年草	黄疸, 下血, 利尿
※ カラスノサンショウ	食茱萸	葉	みかん科	自生	風邪, マラリア(民間)
※ カラタチ	枳殼	果実	みかん科	自生又は栽培	芳香性健胃薬
※ カラシナ	芥子	種子	じゅうじばな科	栽培	皮フ引赤, 湿布剤
毒※ カラスビシャク	半夏	球茎	さといも科	畑地に自生	鎮吐, 祛痰, 強心, 利尿
※ カワラケツメイシ	山扁豆	帯花した全草	まめ科	路傍に自生	利尿
※ カワラナデシコ	ク麦子	種子	なでしこ科	自生	利尿, 通経
※ カワラサイコ	翻白草	根	ばら科	原野に自生	解熱, 通経剤

備	考
根は頭痛の要薬として風邪に効あり	
芳香性健胃薬	
たむし，なまず，やけど，毒虫さされに生葉をもんでつける。淋病，帯下に乾燥した葉10 g煎用，肛門のはれにカタバミとスベリヒユを等量にませ煎じ汁で患部を洗う。	
賦形薬として良品なり	
ウツボグサ（夏枯草）カナビキソウ（土夏枯草）と称す。	
淋疾に効ありとし煎剤とする。	
吉草チンキ，エーテル性吉草チンキを製し鎮痙薬として特にヒステリー及び神経過敏症に用いる。 1日10 g浸剤	
毒虫さされに葉又は花をしぼった汁をつける。少量塩を入れるとよい。百日咳にヘタ又は実を黒焼として黒砂糖を加えてのむ。種子10 gを煎用すると浮腫，利尿によい。	
花粉を脱肛，痔，切り傷，すりむき，やけど，口内炎に患部につける。消炎性利尿に内用し止血に外用する。花粉を食用にするところあり。	
1日8～15 gを煎用する。	
発汗驅風に5～10 gを煎用する。	
実を50個砕き水600mlで半量になるまで煎じこれを1回に飲む。5～6時間でサナダ虫が下る。	
実の赤くなったものを酒にひたしてつぶしたものをつけると，しもやけ，ひび，あかぎれによい。根を黄疸，下血，利尿，催乳に1日用量8 g煎用する。	
果実は中暑，霍乱に用う。葉感冒，マラリヤに用う。	
健胃，止瀉に1日10 g煎剤とする。	
細末に微温を加え引赤薬としリウマチ，神経痛の疼痛を去る。	
のどのはれ，扁桃がはれて痛むときに足の裏の土ふまずに球根を粉末にして飯粒でねったものをすりつけると翌朝不思議と治る。	
健胃，整腸に煎用する。茶剤として常用すると利尿の効あり。眼病に煎汁で洗う。1日15～30 g煎剤とする。	
利尿の要薬として水腫，淋疾に8 g，通経に煎用，多量は流産のおそれあり。	
1日5～10 g煎用	

植物和名	生薬名	薬用部	科名	参考	薬効
※ カワラヨモギ	茵陳蒿	花穂をつけた全草	きく科	路傍に自生	黄疸
※ カワホネ	川骨	根茎	すいれん科	沼地に自生, 宿根草	強壯, 止血
※ カンアオイ	杜衡	根茎および根	うまのすずくさ科	宿根性草本	鎮静, 祛痰
※ カンサイタンポポ	蒲公英	根	きく科	自生	解熱, 発汗, 健胃
※ キラカスウリ		根, 種子	うり科	自生	解熱, 催乳, 鎮咳
※ キキョウ	桔梗根	根	ききょう科	山野に自生	祛痰薬
※ キクイモ		根茎	きく科	栽培	インスリン, 果糖原料
※ キササゲ	キササゲ実	果実	のうぜんかずら科	自生又は栽培	利尿
※ ギシギシ		根	たで科	宿根草	皮フ病, 緩下
毒※ キズタ		茎葉	うこぎ科	山地に自生	衄血
毒※ キツネノカミソリ		鱗茎	ひがんばん科	原野に自生	乳腫
毒※ キツネノボタン		茎葉	きんぼうげ科	自生	発泡
※ キツネノマゴ		全草	きつねのみご科	自生	痛風, リウマチス
△ キバナジキタリス	ジキタリス葉	葉	ごまのはぐさ科	栽培1~2年生	強心
※ キバナオランダセンニチ		全草穂	きく科	栽培	食慾増進
※ キハダ	黄柏	樹皮	みかん科	山地に自生	苦味健胃薬
※ キミカゲソウ	鈴蘭根	根と根茎	ゆり科	自生	強心, 利尿
毒※ キョウチクトウ		樹皮, 根	きょうちくとう科	庭園に植栽	強心薬
※ キリ		葉, 樹皮	ごまのはぐさ科	栽培, 自生	利尿, 鎮咳
※ ギボウシ		根, 茎, 葉	ゆり科	自生又は栽培	腫物

備	考
肝炎，黄疸，じんましん，浮腫に10～20 gを煎用しのむ。消炎性利尿。	
破血，止血の要薬として産前産後，金創，切創，根茎を東北地方では食用とする。	
細辛の代用せられる。	
浄血，強壯薬又は胆汁の分泌を催進する効ありと云う。	
実を黒焼きにしてゴマ油でねり，しもやけに奇効がある。とげの抜けない時外皮をはる。ぜんそく，せきに種子1日6 gを煎用する。催乳などには1日8 gの種子煎用。	
扁桃炎に根の乾燥品1日3 gに甘草2 g，水300mlで半量になるまで煎じてのむ。	
食用又は家畜の飼料とする。	
利尿には1日10 g煎用。はれもの，水虫に生葉の汁をつける。皮を煎用すると健胃に効く。	
新鮮なる根汁を諸種の皮膚病に塗布し又大黄に代用し緩下とする。1日5 g煎剤とする。	
衄血の止血に飲用する。有毒にて注意を要す。	
乳房の腫れに塗るとよい。有毒のため注意を要す。	
有毒なるをもって注意を用す。	
茎葉ともにすりつぶし患部にはっておくと疼痛が軽快する。	
ジキタリスの代用品	
花穂の辛味成分スピラントール約1%含む。調理用に供する。	
健胃，整腸に1日3 gを煎用，又は粉末を用いる。	
1回0.5 g，1日用量15 g煎剤	
葉及び樹皮を強心薬とする。有毒にて注意すること。	
煎用又は黒焼として1日5 gを内用する。	
生汁又は煎液を外用する。	



植物和名	生薬名	薬用部	科名	参考	薬効
※ キランソウ		茎葉	しそ科	自生	収斂, 解熱
※ キレンゲツジ		花	つつじ科	自生, 栽培	痛風
※ キンミズヒキ	龍牙草	全草	ばら科	宿根草	止痢薬
※ クガイソウ	草本威靈仙	根	ごまのはぐさ科	山地に自生	利尿, 痛風, 通経
※ クコ	地骨皮 枸杞子	根, 皮, 葉, 果実	なす科	路傍に自生	解熱, 強壯薬
※ クサギ		葉	くまつづら科	山地に自生	健胃薬
※ クサスギカズラ	天門冬	根	ゆり科	自生	鎮咳, 利尿, 強壯
毒※ クサノオウ	白屈菜	全草	けし科	山野に自生	鎮痛
※ クサボケ	和木瓜	果実	ばら科	庭園に植栽	鎮痙, 鎮咳, 利尿, 強壯
※ クスノキ		木部, 葉	くすのき科	栽培	樟脳原料
※ クズ	葛根	根	まめ科	山野に自生	発汗, 解熱
※ クチナシ	山杷子	果実	あかね科	自生又は栽培	利尿, 黄疸, 吐血
※ クヌギ	樹皮	樹皮	ぶな科	原野に自生	湿疹
※ クマツヅラ	馬鞭草	葉	くまつづら科	路傍に自生	通経, 腫瘍
△ クラムヨモギ		全草	きく科	栽培	サントニン原料
※ クララ	苦参	根	まめ科	自生	健胃, 駆虫
※ クリ		樹皮	ぶな科	自生	媒染料
※ クロフネサイシン		根	うまのすずくさ科	自生	鎮痛
※ クロモジ		根皮	くすのき科	山地に自生	脚気, 霍乱, 止血, 皮フ病, 浴湯料
※ クワ	桑白皮	根皮	くわ科	栽培, 自生	利尿, 緩下, 鎮咳

備	考
1日5～8gを煎じて服む。	
痛風又はリウマチに花又は根を酒に浸して内服する劇毒あるので注意を要す。	
1日10gを煎用すると下痢止によい。陰部の潰瘍に根の煎汁で洗う。	
1日10g内外を煎じてのむ。	
根皮，葉，果実，茎を用い胃腸，強壯強精，陰部のはれ，陰茎の外傷，痔，口内炎，冷え症，目の充血，せき，高血圧，低血圧。	
1日7g内外を煎用する。又粉末として内用する。	
強壯には6～10g煎用する。せきにも同様煎用する。	
イボに茎の汁を1日3～4回つける。打撲，はれものにも汁をつける。タムシにも同様につける。胃腸の疼痛及び潰瘍に鎮痛の効あり。阿ヘンの代用薬とする。	
カッケにクサボケ乾燥果実1日10g煎用する。膀胱尿道炎に皮4gに甘草15gを加えて煎用する。中暑などに1日5～10g煎劑。	
枝，葉をふろに入れると入浴後リウマチの痛みがとれる。カンフル，強心薬，興奮薬として心臓，呼吸器の疾患，阿片中毒に内用し（1日用量0.03～0.3g）皮下注射	
乳汁不足にクズ粉を熱湯で毎朝茶わん一杯をのむ。肩こりにクズの根を煎用する。1日10g煎用。	
打撲に煎劑を外用する。黄疸などに1日10g煎用する。	
じんましんに皮100g煎じ内服。水虫に皮の粉末1日3～6g内服，下痢に皮10～20g煎用。	
外陰部に生葉をもんでつける。乳腺炎に葉をもんでつける。かぜに1日10gの茎葉を煎用する。	
<p>駆虫薬原料</p>	
根の煎汁であせもの部分をふく。たむしに煎汁で湿布する。水虫の患部を煎汁で洗う。健胃に1日5～15g煎用。回虫駆除に1日4g煎用。	
皮膚炎に葉又は皮の煎汁を用いる。毛はえ薬，イガを黒焼にしてゴマ油でねって外用。	
サイシンに代用する。	
根皮は霍乱及び脚氣に効あり煎劑とする。又根皮の粉末を切傷に止血として用いる。疥癬，湿疹には浴湯料とする。本植物の材を妻楊子に用いる。	
利尿には根皮を1日10～15g煎用する。	

植物和名	生薬名	薬用部	科名	参考	薬効
※ クワリン	木瓜	果実	ばら科	落葉喬木	鎮痙, 鎮咳, 利尿, 強壯
※ ケイトウ	鶏冠花, 鶏冠実	花, 種 子	ひゆ科	1年生草	止瀉, 痔疾
※ ケクロモジ		根茎	くすのき科	自生	脚気, 止血
△ ケシ	阿片	乳液	けし科	越年草	鎮痛, 止瀉, 催眠
△ ケジキタリス	ジキタリス 葉	葉	ごまのはぐさ科	栽培	強心, 利尿
※ ゲッケイジュ	月桂樹	葉, 果 実	くすのき科	庭園に植栽	矯臭, 賦香料, 苦味健胃 薬
※ ゲンノショウ コ	げんのし ょうこ	花時の 全草	ふうろそう科	原野に自生	整腸, 止瀉
※ ケンボナシ		果実	くろうめもどき 科	自生	利尿, 解酔, 鎮嘔
※ コアマチャ		葉	ゆきのした科	野生栽培	矯味, 嗜好料
△ コエンドロ	胡荽子	果実	せり科	2年生	健胃, 驅風, 祛痰薬
※ コオニユリ		鱗茎	ゆり科	自生	栄養強壯薬, 鎮咳, 強壯
※ コガネバナ	黄芩	根	しそ科	栽培	解熱, 感冒
※ コウホネ	川骨	根茎	すいれん科	沼地に自生	強壯, 止血, 健胃
※ コクサギ		茎	みかん科	山野に自生	虱駆除
※ ゴシュユ	呉シュ黄	果実	みかん科	栽培	健胃, 驅風, 解毒, 利尿
※ コノテガシワ	柏子仁	種子	まつ科	庭園に植栽	滋養強壯薬
※ コブシ	辛夷	花蕾	もくれん科	自生又は栽培	芳香薬 (頭痛, 瘡毒)
※ ゴボウ	牛蒡子	果実	きく科	畑地に栽培	利尿薬
※ ゴマ	胡麻	種子	ごま科	畑地に植栽	軟膏基剤
※ ゴンズイ		木部	みつばうつき科	自生	解熱

備	考
	クサボケ（和木瓜）支那産木瓜は、クワリンで和木瓜に代用する。
	痔出血に茎葉の乾燥したもの1日に2～3gを煎用。打撲に白ケイトウの花をゴマ油につけておき打ち身の部分にはる。血尿，子宮出血，痔出血などに花実，茎葉を煎用する。
	オオバクロモジ，クロモジに準ずる。
	モルヒネ及びコデイン製造原料
	本種は <i>Digitalis purpurea</i> の葉に比し効果強く蓄積作用無い。
	実は芳香性健胃として1回1gを内用する。月桂油はリウマチに塗布薬とする。月桂葉は西洋料理の賦香料に用いる。
	整腸，止瀉，収斂として1日5～7g煎剤とする。
	果実を煎用し酒毒を解し嘔吐を止むという。
	アマチャに代用する。
	1日用量2～6g煎用する。
	1日5～10gを煎用する。
	消炎性解熱及び充血を去る効あり。胸脇膨満，嘔吐，腹痛，下痢，1日10g煎用。
	漢方で強壯薬とし，又止血剤として産前産後，金創，切創などに用い，葉芽は食用とする。
	茎葉の煎汁を牛馬の虱を殺すに用う。
	頭痛，健胃，驅風，冷え症，1日8g煎，かぜに1日4gを煎用する。
	吐血，喀血，腸出血，子宮出血，鼻血などに止血薬として葉10gを煎用する。
	芳香薬にして頭痛に1日用量2～5g煎剤
	はれものに根，葉の汁をつけるとよい。たんがつまった時根の汁をのむ。浮腫に1日用量8g煎剤とする。
	しらがの予防，毎日ゴマを食べているとしらがの予防によい。
	木部，樹皮を乾燥したもの1日15g内外煎用する。

植 物 和 名	生 薬 名	薬 用 部	科 名	参 考	薬 効
※ サジオモダカ	沢 瀉	根 茎	おもだか科	湿地に自生	利尿
※ サボテン		搾 汁 全 草	さぼてん科	観 賞 用	百日咳, 利尿
※ サボンソウ	サボンソ ウ根	根	なでしこ科	欧 州 原 産	慢性皮フ病, 祛痰薬
※ ザク ロ	ザクロ皮	根 皮	ざくろ科	植 栽	駆虫薬
※ サネカズラ		果 実	もくれん科	自 生	滋養強壯薬
※ サラシナショ ウマ	升 麻	根 茎	きんぼうげ科	自 生	解熱, 解毒
※ サルオガセ		全 草	さるおがせ科	自 生	利尿, 祛痰
※ サルトリイバ ラ	土 茯 苓	根 茎	ゆ り 科	山 地 に 自 生	るいれき, 解毒
※ サル ナ シ		果 実	またたび科	自 生	解熱, 強壯
※ サルービーヤ	サルビヤ 葉	葉	し そ 科	観 賞 用	合嗽薬香料
※ サ フ ラ ン	サフラン	雌 蕊	あ や め 科	畑 地 に 栽 培	芳香薬, 鎮静, 通経, 健 胃, 婦人病
※ サワグルミ		種 仁	くるみ科	自 生	強壯, 鎮咳
※ サワヒヨドリ		葉	き く 科	自 生	婦人要薬, 外傷, 腫物
※ サンシュユ	山シュ黄	果 実	み ず き 科	庭 園 に 植 栽	強精薬
※ サンショウ	山 椒	果 実	み か ん 科	自生又は栽培	芳香性健胃薬, 蛔虫駆除 薬
※ サ ン ザ シ	山 査 子	果 実	ば ら 科	落 葉 灌 木	健胃, 消化剤
※ シ オ ン	紫 苑	根	き く 科	庭 園 に 植 栽	鎮咳, 祛痰
毒 ※ シ キ ミ	莽 草 実	果 実	もくれん科	自生, 常緑灌木	線香の香料
※ ジキタリス	ジキタリ ス葉	葉	ごまのはぐさ科	栽 培	強心, 利尿
※ シコクトリア シショウマ		根 茎	ゆきのした科	自 生	発汗, 解毒, 解熱

備	考
	利尿薬として用いる。又口渴，めまいに1日5～10g煎用する。胃内停水。
	トゲを去りおろし金ですり1日150cc内外を服むと肋膜炎によい。同法はせきにもよい。やけど，神経痛に汁をつける。食物がのどにつかえ又吐気がある人はせんじてのむ。
	梅毒，腺病，慢性皮フ病に変質薬とする。
	水虫に実，根皮の汁をぬる。又煎液で洗う。皮を焼いたものいぶして奇妙によくする。口臭に葉，実をせんじうがいをする。
	せき，乾燥果実1日4g煎用。つるから出る粘液を髪油の代用にする。実を焼酎につける。
	口内炎に煎用する。止血の効がある。解毒，解熱に1日5～15g煎用。
	1日5gを煎用すると祛痰の効あり。不眠症に5g甘草2gを煎用する。煎用すると利尿作用あり。
	解毒に1日20gを煎用する。こしけに20g煎用。カゼに葉10g煎用。膀胱炎，尿道炎に20g煎用。
	1日8～10gを煎用する。
	葉は収斂性にして興奮性があり茶剤となし内用す。1日用量5g，葉の浸剤とし咽喉炎に含嗽剤とす。
	鎮痙及び通経の目的で0.5g鎮静薬
	製品として妊娠嘔吐の治療薬とする。
	産前産後の諸疾1回8g煎用。葉，外傷，腫物に外用。
	強精薬とする。1日5g煎用。
	冷え症，胃腸の弱い人に煎用又は粉末1日2gを内用する。
	魚の中毒に5～10g煎用。消化剤として煎用する。めまいに黒焼2～3gをのむ。
	1日用量3～5g煎用。
	わきが，しらくもに実の汁又は実の煎液をぬるとよいと言われている。線香の香料。
	粉末，煎剤を用う。使用に当っては注意を用す。

植物和名	生薬名	薬用部	科名	参考	薬効
※ シコクフウロ		全草	ふうろそう科	自生	げんのしょうこに同じ
※ シシガラシ		根茎	うらぼし科	自生	止血, 駆虫
※ シソ	紫蘇葉	葉	しそ科	栽培	鎮咳, 鎮静, 利尿
※ シナアブラギリ		種子	とうだいぐさ科	落葉喬木	油脂原料
※ シナエンジュ	槐花	花蕾	まめ科	落葉喬木	止血薬, ルチン原料
※ シャクナゲ		葉	つつじ科	自生	利尿薬
※ シャクヤク	芍薬	根	きんぼうげ科	庭園に植栽	鎮痙通経, 婦人(頭痛, 腹痛)
※ ジャケツイバラ	雲実	種子	まめ科	落葉灌木	マラリヤ, 止痢薬
※ ジャガイモ		塊茎	なす科	栽培	澱粉原料
※ ジャノヒゲ	麦門冬	塊根	ゆり科	山野に自生	強壯, 鎮咳, 祛痰
※ シャリンバイ		樹皮	ばら科	常緑灌木	染料原料
※ ジュズダマ	川殻	種子	いね科	路傍に自生	利尿, 健胃
※ シュウカイドウ		全草	しゅうかいどう科	中国原産多年草	健胃薬(民間)
※ シュロ		果実, 葉	やし科	常緑小喬木	肋膜, 脚気
毒※ シュロソウ		根茎	ゆり科	自生, 多年草	農用殺虫剤
※ ショウガ	生薑	根茎	しょうが科	栽培	芳香性健胃薬
※ ショウブ	菖蒲根	根茎	さといも科	沼地に自生	浴湯料, 芳香性健胃薬
※ シラン	白及	塊茎	らん科	自生, 栽培	吐血, 諸瘡に外用
※ シロバナムシヨケギク	除虫菊	頭状花	きく科	栽培	殺虫剤原料
※ ジロボウエンゴサク	延胡索	塊茎	けし科	自生, 多年草	鎮痛

備	考
	1日5～7gを煎じてのむ。
	1日8g煎用する。
	カゼに葉あるいは実とミカン皮、ショウガ各3gで煎用する。咳止に葉を煎用する。食欲不振に葉を煎じてのむ。
軟膏基剤	
	実は痔の薬として内用す。花は炒り喀血、膀胱出血、腸出血の止血として1日8g煎剤とする。
	葉を煎用すると強壯の効あり。頭痛、高血圧に煎用する。(1日5g)催淫に用う。
	下痢、膿腫等に用いる。1日2～3g煎剤。
	その他寄生虫駆除に1日用量5g煎剤とする。
	のどの痛み、とびひ、やけどに皮をむいたものをおろし金で下し外用する。
	滋養強壯に1日20g煎用。たんの切れをよくし声がれを防ぐ、強心の効あり。利尿の効あり。
	染料エキス6%を得る。
	1日10g煎用。
	全草を健胃薬とするも小児嗜好するが中毒することがある。
	脳出血、半身不随、高血圧に葉を煎じ茶のかわりにのむ。実は浮腫を防ぐ。
	バイケイソウに準ずる。
食欲不振に煎用する調味料	
	冷え症の人に葉を浴用にする。仮死状態になった時生の根茎の汁をのませるとよい。
	ひび、あかぎれ、しもやけ、やけど、切り傷に粉末をねって外用するかすりつぶしたものを外用する。止血に1日10gを煎用する。
	粉末のまま殺虫薬として用いられ又蚊取線香を製す。
	瘀血の要薬として鎮瘧、通経、腹痛、頭痛、月経痛、子宮諸病に1日5～8g煎剤。



植物和名	生薬名	薬用部	科名	参考	薬効
※ シロバナヨウシュチョウセンアサガオ	マンダラ葉	葉	なす科	一年草	鎮痛, 鎮痙, 鎮咳, 喘息 煙草
※ スイセン	水仙	鱗茎	ひがんばん科	庭園に植栽	腫物, 婦人諸病
※ スイカズラ	金銀花, 忍冬	花, 葉	すいかずら科	半常緑藤本	利尿, 健胃, 解熱
※ スイバ		根, 花	たで科	原野に自生	健胃, 解熱
※ スギナ	問荊	全草	とくさ科	自生	利尿
※ スズサイコ		根	かがいも科	自生	解熱, 利尿
※ スベリヒユ	馬齒莧	全草	すべりひゆ科	自生	解毒, 利尿
※ スミレ		葉根	すみれ科	自生	催眠薬, 腫物
※ セイヨウノコギリソウ	西洋蓍草	全草	きく科	庭園に植栽	健胃, 発汗, 催経剤
※ セイヨウエビラハギ	メリロート草	全草	まめ科	栽培1年草	リウマチス, 気管支カタル (外用)
※ セキショウ	石菖根	根茎	さといも科	湿地に自生	鎮痛, 鎮咳, 健胃, 浴湯料
※ セッコク	石斛	全草	らん科	寄生, 多年草	強壯, 美声薬
※ ゼニアオイ		根, 葉, 花	あおい科	各地に栽培	緩和剤, 気管支カタル, 咽喉カタル
※ セリ		葉	せり科	各地に自生	リウマチス, 神経系諸病, 小児の霍乱
※ セネガ	セネガ根	根	ひめはぎ科	栽培	祛痰
※ セリバオウレン		根茎	きんぼうげ科	栽培又は自生	苦味健胃薬
※ センダングサ		茎生 葉	きく科	自生, 一年草	風熱, 毒虫の刺傷
※ センダン	苦陳皮	樹皮	せんだん科	自生	滌虫駆除薬
※ センキュウ	川芎	根茎	せり科	栽培	鎮静, 鎮痛, 強壯
毒※ センニンソウ	威靈仙	根葉	きんぼうげ科	原野に自生	痛風, 疥癬

備	考
	ヨウシュチョウセンアサガオに類し、代用品とする。毒性あり注意を要す。
	腫物に外用する。乳腺炎に外用する。生汁を眼病に用い効ありという。
	利尿，健胃，解熱に1日15～20g煎用。地上部を浴用にすると肌を美しくし，身体を温め，足，腰の痛みによい。腫物の洗滌料ともする。
	扁桃炎に根をすりつぶし外用する。リウマチスに外用する。根の汁を疥癬，頑癬に塗布する。
	茶剤として利尿の効あり。
	ミシマサイコに準じ煎用す。
	利尿，こしけ，痔に生汁をのむか乾燥品を煎用する。
	口内炎，根の煎汁でうがいをする。根の汁をはれものに外用する。
	1日5～10gを煎用する。
	生汁を外用する。
	鎮静に浴湯料とし殊に腹痛，婦人の腰痛，腰冷等に効あり。
	強壯薬として陰痿，盗汗に用い又，健胃薬とする。
	生汁又は煎液を内外用する。
	生汁を外用又は煎用する。
	シロップ製造原料
	オウレンに準じ代用とする。
	外用とする。
	口内炎に根皮を煎じたものでウガイをする。ひび，あかぎれ，しもやけに果肉をつける。疝気，腹痛に葉，樹皮，実を酒で煎用する。
	婦人病に1日5～6g煎用。松の若返り法，煎汁を木の根元に注いでやると若返る。冷え症には浴用として用いる。
	たむし，なまずに茎葉の汁を外用する。はれものには茎葉の汁を松ヤニとねり膏薬にしてつける。

植物和名	生薬名	薬用部	科名	参考	薬効
※ センブリ	当薬	帯花の 全草	りんどう科	山野に自生	苦味健胃薬
※ センナリホオズキ		果実	なす科	1年生草	解熱
※ ゼンマイ		根茎, 根	ぜんまい科	山野に自生	強壯, 利尿, 水腫, 脚気
※ ソクズ		葉, 根	すいかずら科	原野に自生	浴湯料
※ ソテツ	蘇鉄実	種子	そてつ科	栽 植	通経, 収れん
※ ソメイヨシノ	桜皮	樹皮	ばら科	栽 植	鎮咳
※ ダイダイ	橙皮	果皮	みかん科	各地に植栽	芳香性苦味健胃
※ タカネオトギリ		全草	おとぎりそう科	自 生	おとぎりそうに同じ
※ ダイコンソウ	水楊梅	全草	ばら科	湿地に自生	利尿薬
※ タカサブロウ		種子	きく科	田圃に自生	胃カタル, 通経
毒 ※ タテニグサ		全草	けし科	各地に自生	皮膚病, 殺虫
※ タバコ		葉	なす科	栽培1年草	喫煙嗜好料, 硫酸, ニコチン製造
※ タブノキ	タブ皮	樹皮	くすのき科	各地に自生	線香の結合剤
※ タラノキ	タラノキ皮	樹皮	うこぎ科	山野に自生	糖尿病
※ ダーリヤ		塊根	きく科	庭園に植栽	果糖イヌリン
※ チガヤ	茅根	根茎	いね科	自 生	利尿, 止血
※ チドメグサ		茎葉	せり科	路傍に自生	頑癬, 止血薬
※ チヤ	茶葉	葉	つばき科	自生又は栽培	カフェイン製造原料
※ チンチョウゲ	瑞香	樹皮, 根皮	ぢんちょうげ科	植 栽	梅毒, 癩病
※ チョウセンマツ	海松子	種子	まつ科	自生, 植栽	滋養強壯薬

備	考
粉末 0.3 g を内用する。又熱湯でふりだして内用する。しもやけに煎汁であたためる。ぜんそくに煎用する。苦味成分スウェルチアマリン	
1日2gを煎用	
1日5～10g煎用又は食用とする。	
神経痛，リウマチ，打撲又は浴用料とする。打撲には葉の汁を外用する。	
月経のとどこおり，疝気に実1個を煎じ内用する。通経，収れん薬に1日用量10～20g。有毒ホルムアルデヒドを含有する。	
1日用量3～5g煎用する。	
橙皮チンキ，橙皮シロップを製す。健胃，止瀉に1日10gを煎剤とする。	
オトギリソウに同じ。止血，神経痛	
1日10～15g煎用	
種子2～3g煎用	
たむしなどの皮フ病に葉から出る汁をつける。又煎汁を用いる。	
農用殺虫剤に供す。	
皮を粉末として結合に用いる。	
胃病に根皮乾燥品1日20g煎用。糖尿病に1日20g煎用。根皮，紅花，生姜の煎剤を外用し，しもやけに用う。	
根約8%のイヌリン含有	
利尿には1日10gを煎用する。又煎用すると止血の効あり。	
葉を切り傷の止血にもんで外用。	
水虫に番茶を粉末にして患部に散布する。口臭に生葉を少しかむ。カフェイン製造原料。	
1日10g内外を煎用する。	
加水分解によりアミノ酸を生ず。	

植物和名	生薬名	薬用部	科名	参考	薬効
※ チョウセンレンギョウ		果実	もくせい科	植栽	疥癬, るいれき, 腫物
※ ツガ		樹皮	まつ科	自生, 植栽	強壯薬
※ ツクシシクナゲ		葉	つつじ科	自生	強壯, 利尿
※ ツクバネソウ		根	ゆり科	自生	頭痛, 嘔吐
※ ツゲ		葉	つげ科	自生	胃病
毒※ ツタウルシ		乳液	うるし科	自生	(有毒)
※ ツチアケビ	土通草	果実	らん科	自生	強壯, 強精
※ ツヅラフジ		根茎, 根	つづらふじ科	自生	消炎, 鎮痛, 利尿
※ ツバキ		種子	つばき科	自生又は栽培	軟膏基礎剤
※ ツユクサ		茎葉	つゆくさ科	各地に自生	腫物, 下痢止
※ ツリガネニンジン	沙参	根	ききょう科	各地に自生	祛痰薬
※ ツルナ	蕃杏	全草	ざくろそう科	砂地に自生	胃病(民間)
※ ツルドクダミ	何首烏	槐根	たで科	山地に自生	緩下, 補精, 強壯
※ ツルニンジン	朝鮮沙参	根	ききょう科	自生	祛痰薬
※ ツルリンドウ		根	りんどう科	自生	りんどうの代用
※ ツワブキ		茎葉	きく科	山地に自生	解毒(魚肉の中毒)
※ テイカカズラ	絡石	茎葉	きょうちくとう科	自生	解熱, 強壯
毒※ テンナンショウ	天南星	根茎	てんなんしょう科	自生	祛痰, 鎮痙
※ トウオオバコ	車前草 車前子	全草 種子	おおばこ科	自生	利尿, 鎮咳, 止瀉
※ トウゴマ	ヒマシ油	種子	とうだいぐさ科	栽培	ヒマシ油製造原料

備	考
レンギョウに代用する。内服薬として用いる。	
1日7gを煎用する。	
ジャクナゲに同じ。	
1日5g煎用する。	
1日3g粉末又は5gを煎用する。	
果皮中蠟分68%を含有する。漆カブレ易き人は近付かないこと。	
果実を強壯強精薬とする。民間では淋病に効ありとして1日10g煎劑とする。	
一名アオツツラフジ1日約4g煎用する。	
関節、節をちがえた時葉4～5枚に甘草2gを入れ1日分として煎用。オリーブ油代用とし基劑又は食用油，頭髮油に用う。	
結膜炎に花を取り汁で洗眼する。ぜんそくに生食又は煎用する。心臓病の浮腫，利尿に15g煎用する。はれものに生汁をつける。	
根は1種のサポニンを含有する。1日用量8g煎用。	
全草胃癌に効あり薬用又は食用とす。	
1日10～20g煎劑。	
1日8～10gを煎用。	
苦味健胃薬とする。	
魚の中毒，食あたりに生汁をのむと吐く。歯ぐきがはれて痛むとき葉をあぶってほおにはる。打身したとき葉をあぶりはると鎮痛作用あり，火傷に葉を湯通し患部にはる。	
1日10gを煎用する。	
リウマチ，肩こりに生の根をすりつぶしてはる。せき止に乾根2～3gを煎用する。	
オオバコに代用する。	
ヒマシ油は下劑として1回20～30g内用。化粧品用。	

植物和名	生薬名	薬用部	科名	参考	薬効
※ トウガラシ	蕃 椒	果 実	な す 科	栽 培	辛味性健胃薬, 引赤薬
※ トウモロコシ	玉蜀黍芯	雌芯の花柱	い ね 科	栽 培	利尿薬
※ ドウカンソウ	王不留行	種 子	な で し こ 科	栽 培	催乳, 止血, 鎮痛
※ トウゲシバ		胞 子	ひかげのかずら科	自 生	石松子と同じ
※ ト ウ キ	当 帰	根	せ り 科	栽 培	婦人病, 温性強壯
※ ト ク サ	木 賊	地上部	と く さ 科	常緑多年草	止血剤(腸出血, 痔出血)
※ ドクダミ	重 薬	全 草	どくだみ科	自 生	腫物, 痔疾, 化膿
毒△ ドクニンジン	コニウム草	全 草	せ り 科	欧州原産	コニイン含有(猛毒)
※ トチノキ		樹 皮	とちのき科	山地に自生	子宮出血, 痔疾, 下痢
※ トチバニンジン	竹節人参	根 茎	う こ ぎ 科	山地に自生	祛痰薬
※ トリアシショウマ		根 茎	ゆきのした科	自 生	解熱, 解毒, 消炎
※ トロロアオイ	黄蜀葵根	根	あ お い 科	栽 培	粘滑薬(カタル症)鎮咳, 製紙用粘料
※ ナガバシユロソウ		根 茎	ゆ り 科	自 生	吐 剤
※ ナ シ		葉	ば ら 科	落葉喬木	収れん, 利尿, 尿路消毒薬
※ ナツミカン	夏 皮	果 皮	み か ん 科	栽 培	矯味矯臭薬, 芳香料
※ ナ ツ メ	大 棗	果 実	くろうめもどき科	栽 培	緩和, 強壯, 利尿
※ ナデシコ		種 子	な で し こ 科	自 生	水腫, 治淋
※ ナルコユリ		根 茎	ゆ り 科	自 生	滋養強壯薬
※ ナンテン	南天実	果 実	め ぎ 科	庭園に植栽	鎮咳薬
※ ナンバンギセル		全 草	はまうつぼ科	自 生	強壯, 強精

備	考
辛味成分は、カプサイチン、蕃椒チンキを製す。	
1日8gを煎用する。腎臓疾患、水腫性脚気、浮腫性疾患の利尿薬とする。	
切創に外用し止血、鎮痛、催乳薬、用量4g粉末を内用する。	
丸衣に用いる。吸湿し難い。	
貧血性瘀血を去る。鎮静、通経、1日10g煎剤とする。	
茎を黒焼きにしてゴマ油でねり布につけ脱肛をつつむ様にしておしこむ。結膜炎に茎の煎液であらう。子宮出血、痔出血その他の出血に茎1日5gを煎用する。利尿、浮腫に根5g煎用する。	
痔核に生根の汁1回3～4gのむ。葉20gを煎用するとよい。生葉の汁をぬってもよい。風呂に入れてもよい。高血圧、狭心症、動脈硬化の予防、脳出血の予防、脳出血の予防、冷え症に浴用剤とする。	
コニイン製造原料	
じんましんに皮10gを煎用する。水虫には実をすりつぶし当帰等量加えて煎じ液を患部につける。こしけ、子宮出血、痔出血に皮10gを煎用。せき止に葉を20g煎用。下痢止に皮又は葉を煎用。	
1日用量5g浸剤。鎮咳、祛痰薬	
赤升麻と云う。	
煎剤又はシロップを粘滑薬として腸カタルに用い、又鎮咳薬とする。製紙用糊として多量に使われる。	
根茎を煎用する。	
実1個を黒焼きとしせき止めに4日分のます。ウワウルシ代用として葉1日10g煎用する。	
芳香料とし多く浴用料にする。	
緩和、利尿、強壯薬として急迫を緩め牽引痛を治す。	
利尿に種子10gを煎用する。根、茎葉を煎用する。(カワラナデシコを用う)通経の効あり。多量は流産のおそれあり妊婦に用いるを禁ず。	
強壯強精に焼いたり酒につけたりして食べてもよく粉末で服んでもよい。	
10gを煎用する。眼病に樹皮、根皮の煎液で洗眼する。口臭に葉を煎じた汁をのむ。脚気や歩行困難の人は根皮を煎じてのむとよい。実の黒焼末をのんでもよい。	



植物和名	生薬名	薬用部	科名	参考	薬効
※ ニガキ	苦木	材	にがき科	自生	苦味健胃薬
※ ニガナ		全草	きく科	自生	胃腸病, 虫毒
※ ニシキギ		種子	にしきぎ科	自生	殺虫
※ ニッケイ	肉桂	根皮	くすのき科	自生	芳香性健胃薬
※ ニラ	菲, 菲子	茎葉種	ゆり科	栽培, 宿根草	吐血, 衄血, 泌尿器性疾患, 強壯, 整腸
※ ニワトコ	接骨木花	花葉	すいがずら科	自生	発汗, 利尿, 打撲症
※ ニンニク	大蒜	鱗茎	ゆり科	栽培	利尿, 健胃, 駆虫, 強壯鎮静
※ スルデ	五倍子	虫癭	うるし科	自生, 小喬木	タンニン酸, 没食子酸, ピロガロール製造原料
※ ネズ	日本産杜松実	擬果	びゃくしん科	自生	発汗, 利尿
※ ネズミモチ	和女貞	果実	もくせい科	自生	強壯薬
※ ネナシカズラ	ト糸子	種子	ひるがお科	自生	強精, 強壯薬
※ ネムノキ	合飲皮(邦産)	樹皮	まめ科	自生	駆虫, 鎮痛
※ ノイバラ	宮実	果実	ばら科	自生	峻下薬
※ ノアザミ	野薊	根	きく科	自生	強壯, 利尿, 止血
※ ノキシノブ		根茎	のきしのぶ科	自生	疝気
※ ノギラン		全草	ゆり科	自生	利尿
※ ノゲイトウ	青箱子	種子	ひゆ科	自生	強壯
※ ノビル	山蒜	全鱗草茎	ゆり科	原野に自生	腸カタル, 不眠症, 子宮血腫
※ ノボロギク		葉	きく科	山野に自生	疝痛, 月経痛
※ ノリウツギ		樹皮	ゆきのした科	山野に自生	製紙用粘料

備	考
	材の部を煎用するか粉末にしてのむ。苦木エキス，苦木チンキ健胃，煎汁を家畜及び農作物の殺虫に用う。
	全草 1日10g煎用又は食用とする。
	トゲのささったとき葉枝を黒焼にしので紙にのべ患部にはる。1～2時間後はがすと頭をだすから引き抜く。実を煎汁でシラミの駆除。実の煎汁で回虫駆除薬。
	矯味矯臭薬とす。製薬用として嗜好品とす。種子の脂肪は軟膏，坐薬などの基剤とする。
	うるしかぶれに生汁をつける。遺精に生実30粒を飲む。日射病に生汁をのませる。
	打撲，皮フ炎に煎汁をつける。浴用料にしてもよい。花葉を煎用すると利尿効あり。花を煎用すると，発汗の効あり。
	ニンニク酒，ニンニク膏のつくり法。1株のニンニクを切り焼酎1合につけ1ヶ月以上おく。ニンニクと砂糖酒で煮つめドロドロにしたものをなめる。
	フシにミョウバンを混ぜ，煎汁で患部（脱肛）を温める。出血には粉末をつける。
	実3gを煎服すると利尿によい。湿疹に茎から出る油をつけるとよい。
	実を煎用すると強壯，強精によい。はれものに葉をあぶってもみ患部にはる。
	ニキビに茎の生汁をつけるとよい。茎の黒焼を卵の黄身でねり痔につける。あせもに煎汁をつける。種子を煎じると強壯強精によい。尿道炎に種子3g，甘草2gを煎じてのむ。
	打撲，はれものに皮を煎じエキス状にして患部にはる。又皮を粉末にしてのんでもよい。めまいに黒焼（皮）を飲むとよい。
	実1日5gを煎用すると峻下に効あり。根皮を10g煎用すると利尿，浮腫によい。
	耳痛，外耳炎で痛むとき生根汁をガーゼにしたし耳にさしこんでおくとよい。はれものに生葉汁をつける。痔瘻，葉茎ともによくゆがいて水でよく洗い乾かして粉末とし1日6～10gをのむ。
	10～3月採取し土石を除き束ねて乾す。1日10g煎用。
	脚気の水腫の利尿薬として1日10g煎用する。
	強壯薬として耳目を明かならしめる。1日6～10g煎剤。
	のどの痛みに根茎を黒焼として飲む。黒焼はせき止によい。のどのつまりに球根を粉末にして飲む。はれものに球根を黒焼としてヒマシ油でねってはる。常食すると陰萎によい。
	疝痛，月経痛に煎剤として内用。又搾汁を痔疾，腫張に塗布する。
	和紙の粘料とする。

植物和名	生薬名	薬用部	科名	参考	薬効
毒※ バイケイソウ		根 茎	ゆ り 科	山野に自生	催吐, 農用殺虫薬
※ バクチノキ	バクチ薬	葉	ば ら 科	自 生	バクチ水原料
※ ハ コ ベ	繁 縷	全 草	な で し こ 科	自 生	婦人産後の浄血薬
※ ハコネソウ	石長生	全 草	う ら ぼ し 科	自生常緑多年生	祛痰, 利尿, 通経
毒※ ハシリドコロ	ロート根	根 茎	な す 科	陰地に自生, 多年生	ロートエキス, 硫酸アトロピン
※ バ シ ョ ウ	芭 蕉	茎, 葉 根	ば し ょ う 科	植 栽	利尿, 感冒, 腹痛, 胃痛
※ ハ ス	蓮 実	果 実	す い れ ん 科	栽 培	婦人病, 強壯
※ ハスノハカズラ	千金藤	茎 幹	つ づ ら ふ じ 科	自 生	腹痛, 風邪, 止瀉
※ ハゼノキ		果 実	う る し 科	自 生	膏剤の基礎剤
※ ハダカホオズキ		果 実	な す 科	自 生	疔 腫
※ ハ ト ム ギ	薏苡仁	種 子	い ね 科	栽 培	健胃, 利尿, 強壯
※ ハ ッ カ	薄荷葉	葉	し そ 科	栽 培	ハッカ油, ハッカ脳原料
※ ハナミョウガ	伊豆縮砂	種 子	し ょ う が 科	自 生	芳香性健胃薬
※ ハ ナ ス ゲ	知 母	根 茎	ゆ り 科	満州原産	解熱薬
※ ハハコグサ	鼠 麴 草	全 草	き く 科	自 生	鎮咳薬
※ ハ ブ ソ ウ	望江南	種 子 全 草	ま め 科	栽 培	食傷, 腹痛毒虫の咬傷
※ ハ マ ゴ ウ	蔓 荆 子	果 実	く ま つ づ ら 科	自 生	解熱, 強壯, 清涼剤
※ ハ マ ス ゲ	香 附 子	根 茎	か や つ り ぐ さ 科	自 生	通経, 鎮瘻
※ ハマボウフウ	浜 防 風	根	せ り 科	自 生	感冒, 浴湯料
※ ハ ラ ン		根 茎	ゆ り 科	植 栽	祛痰, 強壯, 利尿, 強心

備	考
根 600g, 石鹼 75g, 水 27ℓ で農用に使用する。	
新鮮葉よりバクチ水を製造す。鎮咳, 呼吸鎮静薬に 1日 3~5g	
虫垂炎に茎葉 200g に塩を加えてもみ, その汁をのむと奇効がある。胃腸の弱い人は生汁か, せんじ汁をのむとよい。乳汁不足にもよい。煎汁をのむと産後の浄血により。催乳。	
全草を煎用する。	
鎮痙, 鎮痛とし喘息, 神経痛, 胃痛に内用 ロートエキス 1回 0.01g	
根の煎汁をのむと尿が出て浮腫に効あり。のどに骨のささったとき, 葉の黒焼 1回 5g 又は葉の粉末をのむと奇妙に抜ける。毛はえ葉, 根とキリの枝葉を等量黒焼としゴマ油で患部にぬる。	
実 1日 10~20g を煎用すると強壯薬となる。口渴及び嘔吐を治す 1日 8g 煎用。	
虚勞, 瘡癤に用いる。	
果実を搾り生ロウとし日光にあて晒ロウとする。更に精製し木蠟とする。	
外用とす。	
イボとりに実の外皮を去り 15g を煎用 (1日~30日間) すると全身イボが治る。種子を煎用すると滋養強壯により。皮フのつやがよくなる。	
矯味に用いる。芳香料とする。	
種子を採集し子衣を剥除して使用する。	
1日 4~10g 煎劑	
タムシ, シラクモ, はたけ, 全草に塩かトウガラシを混ぜ黒焼をつくりゴマ油でねって患部につける。せき止に 1日葉 8g を煎じる。	
実をあぶって 1日 20g を煎じてのむ。種子は食傷及び腹痛に内用する。	
頭痛, 感冒に用う 1日 10g 煎劑とする。民間で浴湯料とする。	
根茎 1日 5g を煎じて通經薬とする。	
感冒の薬として又浴用劑とする。	
肋膜, 根 3g と葉 2枚を刻み 1日量として煎用。せき止, 実 5個に甘草 2g を加えてせんじる。	

植物和名	生薬名	薬用部	科名	参考	薬効
※ ハリギリ	海桐皮	根皮	うこぎ科	自生, 喬木	祛痰薬
※ ハンゲショウ	三白草	葉	どくだみ科	自生	利尿薬
※ ヒオウギ	射干	根茎	あやめ科	自生又は栽培	扁桃腺炎, 緩下薬
※ ヒカゲノカズラ	石松子	胞子	ひかげのかずら科	自生	丸衣
毒※ ヒガンバナ	石蒜	鱗茎	ひがんばん科	自生	祛痰, 催吐薬
※ ヒキオコシ	延命草	葉	しそ科	自生	苦味健胃薬
※ ヒシ	菱実	果実	あかばな科	沼地に自生	解熱, 強壯薬
※ ヒトツバ		根葉	うらぼし科	自生	利尿
※ ヒトツバハギ		枝葉	とうだいぐさ科	自生	セクリニン原料(小児麻ひ後遺症)
※ ヒナゲシ	麗春花	花	けし科	栽培	鎮咳薬, シロップ着色料
※ ヒナタイノコズチ		根	ひゆ科	自生	利尿, 強精, 通経
※ ビナンカズラ	南五味子	果実	もくれん科	自生	滋養強壯, 収れん, 鎮咳
※ ヒノキ		精油	まつ科	自生又は栽培	尿路消毒, 治淋
※ ヒマワリ	向日葵	種子の脂肪油	きく科	栽培	食用石ケン溶剤
※ ヒメキンミズヒキ		全草	ばら科	自生	止瀉
※ ヒメハギ		根	ひめはぎ科	自生	利尿, 祛痰
※ ビヤクブ	百部	根	びやくぶ科	栽培	皮フ寄生虫駆除
△ ヒヨス	ヒヨス	葉	なす科	栽培	鎮痛, 鎮痙, 鎮咳
※ ビヨウヤナギ		葉	おとぎりそう科	中国原産	悪疽, 腫物
毒※ ヒヨドリジョウゴ		茎葉	なす科	自生	解熱, 鎮痛

備	考
	根皮にカロトキシンを含む溶血指数 5,000,000 にして20万倍溶液は鯉を死なせる。
1日8g煎剤とする。	
消炎解凝薬，駆瘀血薬及び緩下咽痛を治す要薬，1日用量3～10g	
湿気を吸収しない物質を含むため丸衣に用いる。	
あかぎれ，球根をおろし米のりでねってつける。痔の痛むとき茎を煎じた汁で洗う。土ふまずにはって浮腫をとる。	
全草をせんじて苦味健胃剤で腹痛によい。	
漢方原料に用いる。	
葉を煎じ利尿薬とする。尿路結石に効く。	
1日5～15gを用いる。	
花を煎剤として又茶剤として粘滑性の含嗽剤とす。又砂糖を加えシロップを製造し鎮咳薬とする。	
イノコズチに準ずる。	
1日6～15g煎用。外皮の水浸液は粘液性にして婦人の頭髮に洗用する。	
節が痛風によい。リウマチにヒノキの節が良い。節3～4gに水4～5合で煎じてのむ。利尿作用有り。	
脂肪油 22.2～36.5%食用油，塗料の原料に供す。	
キンミズヒキに準じ1日10g煎用し下痢止とする。	
イトヒメハギ（遠志）を用いヒメハギは殆んど用いず。	
たんをともなうせきに3～6gをせんじてのむ。煎汁は人，動物の寄生虫駆除。	
ヒヨスエキスを製し鎮咳，鎮痛等とする。	
茎葉を乾燥し1日10～15g煎用する。	
1日10g煎用。	

植物和名	生薬名	薬用部	科名	参考	薬効
※ ヒルガオ	旋花	全草	ひるがお科	自生	利尿薬
※ ヒレハリソウ		根茎及び根	むらさき科	栽培	止瀉，包摂薬
※ ビワ	枇杷葉 枇杷仁	葉，種子	ばら科	自生又は栽培	利尿，浴湯料，杏仁水代用品原料
※ フキ		嫩穂	きく科	自生	鎮咳，祛痰
毒※ フクジュソウ	福寿草根	根および根茎	きんぼうげ科	自生又は栽培	強心，利尿薬
※ フジバカマ	蘭草	葉	きく科	自生	利尿，通経
※ フタバアオイ		根，果実	うまのすずくさ科	自生	鎮咳，祛痰，催乳
※ フナバラソウ	白薇	根	かがいも科	自生	解熱，利尿（浮腫）
※ フユイチゴ		葉	ばら科	自生	百日咳
※ フユザンショウ	秦椒	果実	みかん科	自生	口瘡，歯痛，視力を増す
※ ヘクソカズラ		葉，花，果実	あかね科	自生	毒虫の刺傷，凍傷
※ ベニバナ	紅花	花	きく科	栽培	婦人病，通経薬，紅原料
※ ヘンルーダ	芸香	全草	みかん科	栽培	駆風，通経，鎮痙
※ ベンケイソウ	景天草	葉	べんけいそう科	植栽	皮膚病，解毒（虫毒）
※ ホウコグサ		全草	きく科	自生	鎮咳薬
※ ホオズキ	酸漿	果実，根	なす科	自生	鎮咳，利尿
※ ホオノキ	厚朴	樹皮	もくれん科	自生	収れん性利尿，腹痛
△ ホソバタイセン		葉	あぶらな科	栽培	染料
※ ボタン	牡丹皮	根皮	きんぼうげ科	栽培	消炎，鎮痛，鎮痙
※ ホップ	ホップ，ホップ腺	雌花穂腺体	くわ科	栽培	ビールの苦味料，苦味健胃薬，鎮静

備	考
疲労，精氣，民間では糖尿病に効ありとする地方あり。	
青汁として服用する。一名コンフリーとして知られているものです。	
せき，健胃に葉の表面の毛をさり1日10gを煎用，又種子1日5個を煎用してもよい。1日葉5枚を煎用すれば利尿，浮腫によい。あせもに浴用料とする。	
せき止にフキノトウ10gを煎用する。魚の中毒に茎葉の汁をのむとよい。	
1日用量2～3g浸剤又は煎剤とする。	
月経不順に根10gを1日量として煎用する。口渴に茎葉10gを1日量として煎用する。	
ウスバサイシンに類し代用する。	
根を煎用。	
全草又は葉を乾燥したもの1日10gを煎服する。	
1日5g煎用又は外用する。	
生汁又は煎液を外用する。	
煎用する。	
全草を茶剤として駆風，通経，ヒステリーに効あり。多量は有害につき注意を要す。	
痔に葉の煎汁で洗う。又種子を煎じて飲んでもよい。虫毒には生汁をつける。葉を諸瘡に貼布する。	
全草種子を1日10g煎用する。	
百日咳，せき，地上部を黒焼として1日量1～6gをのむ。尿閉に生汁又は葉を煎用，胸の痛むのに赤い実を煎用，かぜの解熱に根10g煎用。	
樹皮は健胃薬として腹痛，嘔吐，下痢を治し駆虫の効あり。1日20g煎用する。	
生汁を用いる。	
止血，駆瘀血，緩下に1日用量4～8g煎剤とする。	
健胃，鎮静，利尿，不眠症，膀胱カタル等に賞用す。	



植物和名	生薬名	薬用部	科名	参考	薬効
※ ホルトソウ	続随子	種子	とうだいぐさ科	栽培	利尿, 瀉下
※ マオウ	麻黄	草質茎	まおう科	中国原産	エフェドリン, 発汗, 鎮咳, 解熱
※ マサキ	和ト仲	幹皮	にしきぎ科	栽培, 自生	利尿, 強壯薬
※ マタタビ	木天蓼	果実の虫エイ	またたび科	自生	鎮痛, 腹痛
※ マツグミ		茎, 葉	やどりぎ科	寄生	強壯
※ マツホド	茯苓	菌体	さるのこしかけ科	自生	利尿
※ マツブサ	松藤	木部	もくれん科	自生	浴湯料
※ マユミ		根皮	にしきぎ科	自生	疥癬
※ マンネンズギ		孢子	ひかげのかずら科	自生	石松子と同じ
※ ミカン(ウンシュウ)	陳皮	果皮	みかん科	栽培	芳香性健胃薬
※ ミシマサイコ	柴胡	根	せり科	自生	解熱(マラリヤ)
※ ミズヒキ		根	たで科	自生	升麻の劣等品
※ ミチャナギ	扁蓄	全草	たで科	自生	利尿(黄疸, 腎臓) 腹痛
※ ミツデウラボシ	鶏脚草	全草	うらぼし科	自生	治淋薬
※ ミツバ		葉	せり科	自生	食慾増進
※ ミツバアケビ		木部	あけび科	自生	利尿
※ ミツマタ		樹皮	じんちょうげ科	栽培	製紙用
△ ミブヨモギ		全草	きく科	栽培	サントニン原料
毒※ ミヤマシキミ		葉	みかん科	自生	(民間) 駆風
※ ミヤマトベラ	和山豆根	根	まめ科	自生	咽喉諸症

備	考
利尿の要薬とした。瀉下の効あり。用量 0.5～1g 果皮を去き種子を圧搾し油分を去り用う。多量は劇毒なので注意を要す。	
1日用量 3～10g 煎用とする。	
1日 4～12g 煎剤とす。	
疝痛，腰痛，果実 10g を1日量として煎用。茎葉を浴用料ともする。婦人の腰痛に粉末 1回 3g をのむ。リウマチ，神経痛に木皮 10g 煎用。ねこの病気に用いる。	
1日 10g 煎用する。	
利尿薬とし水腫，淋疾に 1日 5g 煎用する。	
冷え症，腰痛につるを刻み浴湯用とする。紫黒色に熟した果実はたべられる。	
煎液を外用する。	
ヒカゲノカズラの代用品とする。	
陳皮 5g，甘草 2g，ショウガ 3g を1日量として煎用するとせき止によい。風邪に皮 5g，シソ葉 2g，甘草 1g，ショウガ 3g を1日量としせんで服む。	
柴胡は寒熱を治す効あり単方で 50g 煎用。	
解熱薬に 1日 10g 煎用。	
黄疸，腹痛，霍乱，駆虫，1日 5～25g 煎用。	
民間で葉を煎用し治淋とする。	
煎用又は食用とする。	
アケビ（木通）の代用品。	
乾燥したものをを用いる。	
サントニン原料駆虫。	
1日 5g を煎用する。	
粉末をつける。のどの痛みに 1日 5g を煎用する。根の粉末が癌の発育を阻止するという。	

植物和名	生薬名	薬用部	科名	参 考	薬 効
※ ミヤマナルコユリ		根 茎	ゆ り 科	自 生	滋養強壯薬
※ ミ ヨ ウ ガ		根, 茎, 葉	し ょ う が 科	自 生	腎臓, 眼病
※ ミヤマエンレイソウ		根	ゆ り 科	自 生	胃腸催吐
※ ム ク ゲ	木 槿 花	花 蕾	あ お い 科	栽 培	粘滑薬
※ ム ク ロ ジ	延 命 皮	果 皮	む く ろ じ 科	自 生	祛痰薬, 洗滌
※ ム ク ノ キ		花	に れ 科	自 生	胃腸病
※ ム ベ		茎 根	あ け び 科	自 生	利尿薬
※ ムラサキイリス	イリス根	茎 根	あ や め 科	植 栽	歯磨粉, 洗粉の香料
※ ムラサキセンブリ		全 草	り ん だ ん 科	自 生	苦味健胃薬
△ ム ラ サ キ	紫 根	根	む ら さ き 科	自 生	火傷, 凍傷
※ メ ギ	小 蘗	茎根の材	め ぎ 科	自 生	苦味健胃薬
※ メ ダ ラ		樹 皮	う こ ぎ 科	自 生	利尿(糖尿病)
※ メ ナ モ ミ		全 草	き く 科	自 生	悪瘡, 腫毒, 中風
※ メ ハ ジ キ	益 母 草	葉および花穂	し そ 科	自 生	産後の止血, 補精, 視力増強
※ モンセンゴケ		全 草	い し も ち そ う 科	自 生	祛 痰
※ モ チ ノ キ	本 藜	ゴム様粘質物	も ち の き 科	自 生	絆創膏基礎剤, 塗料原料
※ モ モ	桃仁, 白花	種 子 花 白	ば ら 科	栽 培	鎮咳, 消炎性駆瘀血薬, 利尿, 峻下, 水腫
※ ヤ ッ デ		葉	う こ ぎ 科	自 生	祛痰薬
※ ヤブクワンゾウ	萱 草	塊 根	ゆ り 科	自 生	利尿, 止血, 消炎薬
※ ヤブコウジ	紫 金 牛	根	や ぶ こ う じ 科	自 生	解毒, 利尿薬

備	考
1日5～10gを煎用する。	
結膜炎，突き目，根茎をしぼった汁をつける。また煎汁で洗うとよい。花の汁を目にそそぐ。月経不順根茎10gを1日量として煎用する。又同法は利尿によい。痔に葉を煎じ腰湯するとよい。	
エンレイソウに準ず。多量は有害なり。	
下痢，下血，帯下，花1日10gを煎用してのむ。不眠症，かぜ，胃炎にもよい。利尿にもよい。やけどに花の黒焼をつける。胃腸カタル，腸出血に煎用し又止瀉。口渇。	
去たんに果肉の乾燥したもの3～5g 1日分とし煎じるとたんの切れ，せき止にきく。毛ジラミ，水虫に果実を煎じた液で洗う。	
花を1日5g煎用する。	
利尿，浮腫に果実または果皮を煎じてのむ。陰茎，性欲減退に1日2回果実を煎じてのむ。蔓または根を煎じてのむと強心，利尿の効あり。	
根を水洗後粉末として用いる。	
センブリの代用とする。	
紫根のエキスは皮フ病に軟膏として用う。湿疹，水泡等に用う。	
結膜炎などに外用する。枝葉，根をせんじて洗眼又は点眼する。専ら健胃薬。	
タラノキに準ずる。	
葉茎1日10g煎用すると乳腺炎によい。中風の妙薬，キレイ丸（きれいがん）メナモミの葉をツボに入れ，酒とはちみつを注ぎ，発酵がおこったとき葉を日乾しこの操作をくり返し10gのむ。	
産後の諸病に全草15g煎用，月経不順，帯下に全草か種子を煎じてのむ。腰痛，腹痛に全草を煎じてのむ。魚の中毒にもよい。眼病，精力増進に種子を煎じてのむ。リウマチ，神経痛にもよい。	
全草を乾燥し祛痰薬とする。1日4g煎剤又はチンキ剤として用いる。	
絆創膏などの粘着剤とする。	
花を1日3～5gを煎用すると下痢をし浮腫を去る。種子を粉末にして1日6gを飲むと通じがよい。種子1日5～10gを煎用するとせき止によい。カツオの中毒に著効ある白桃花，花を食べさせる。	
葉を刻んで浴用料としリウマチスによい。葉を煎じてのむとたんの切れがよくなる。せき止にもよい。食欲が減ずることがある。	
1日10～15g煎用する。	
膀胱尿道炎，健胃，ヤブコウジの根5g，ヘビイチゴの根5g，甘草2gを煎用する。解毒に煎用する。	

植物和名	生薬名	薬用部	科名	参考	薬効
※ ヤブジラミ		果実	せり科	自生	収れん性消炎薬
※ ヤブソテツ	貫衆	葉茎をつけた根茎	うらぼし科	自生	駆虫, 止血薬
※ ヤブタバコ		果実	きく科	自生	条虫駆除薬
※ ヤブツバキ		果実	つばき科	自生	つばきに同じ
※ ヤブニッケイ	肉桂脂	種子の脂肪油	くすのき科	自生	坐薬基礎剤, カカオ脂代用
※ ヤブラシ		塊根	ゆり科	自生	鎮咳, 祛痰, 強心, 強壯
※ ヤマアザミ		根	きく科	自生	解毒, 強壯, 利尿
毒※ ヤマゴボウ	商陸	根	やまごぼう科	原野に自生	利尿薬
※ ヤマザクラ		樹皮	ばら科	自生	鎮咳
※ ヤマシャクヤク	山芍薬	根	きんぼうげ科	自生	鎮咳, 祛痰, 解熱
※ ヤマジソ		全草	しそ科	自生	駆虫(十二指腸虫)
毒※ ヤマトリカブト	草烏頭	根	きんぼうげ科	自生	鎮痛(使用には特に注意)
※ ヤマブキ		花	ばら科	自生	粉末は止血, 解毒剤
※ ヤマノイモ	山薬	根	やまのいも科	自生	滋養強壯薬, 止瀉薬
※ ヤマブドウ		果実	ぶどう科	自生	強壯, 補血剤
※ ヤマモモ	楊梅皮	幹皮	やまもも科	自生	収れん, 殺虫, 解毒薬
※ ユーカリノキ	ユーカリ薬	葉	ふともも科	植栽培	ユーカリ油原料
※ ユキノシタ	虎耳草	全草	ゆきのした科	自生又は植栽	搾汁は百日咳, ひきつけ生薬は腫物, 火傷, 凍傷
※ ユスラウメ		小枝葉果	ばら科	植栽	咽喉カタル
※ ユズ	柚実	果実	みかん科	植栽	健胃, 駆風, 矯臭薬, 種子はリウマチス, 疝気症

備	考
	蛇床子の代用として用いる。実を婦人外陰部のかゆみ、帯下に用う。粉末としてモグサに混ぜ絹の袋に入れ腔に注入する。
	煎用する。
	煎用する。
	軟膏，基剤，ツバキ油原料。
	カカオ脂代用として製菓用に供す。
	強壯に1日10gを煎じてのむ。皮フのつやがよくなる。せき，たんの切れによい。
	健胃に根10gを煎用。乳腺炎，はれものに生葉の汁をつける。リウマチに葉の汁に酢小麦粉で患部にはる。吐血に葉根の汁をのむ。痔に葉の煎汁をつける。
	浮腫に根10gを煎用する。便秘に葉をあえものにして用いる。
	ソメイヨシノに準じ，皮1日6g煎用する。
	シャクヤクに準じ，1日2～3gを煎剤。
	腸内異常醗酵制止等の目的に用う。1回1g1日量4～5gを与う。
	神経痛，リウマチス，等の鎮痙薬に用いる。
	外用とする。
	根を生，乾燥品を煎用又は粉末を服用しても強壯によい。せき止に生をすり熱湯を注ぎのむとよい。健胃整腸に煎用する。
	たむし，幼児の頭部湿疹に生葉に塩を加えてせんじその汁を患部につける。神経痛に実の汁をつける。つるを浴料にしてもよいと云う。強壯に実を乾燥して煎用する。
	骨折，くじき，打撲に皮の粉末に1/5のイヌザンショウの末甘草末を加え酢でねってつける。やけどはれものに皮の煎汁で洗うとよい。頭痛に皮10gをせんじてのむ。
	解熱，駆虫，殺菌，芳香。
	凍傷に生汁をぬる。耳だれに生汁を流しこんでやるとよい。かぜ熱，葉20gを煎用する。にきびにどくだみとゆきのしたの汁を合せてつける。
	煎剤として1日15gを用いる。
	扁桃炎，種子の黒焼6gを1日分としてのむ。かぜに皮のまま汁をとり砂糖を加え熱してのむ。のどに食物のつかえた時果汁をのむとよい。実を風呂に入れると冷え症とリウマチ，神経痛に効く。

植物和名	生薬名	薬用部	科名	参考	薬効
※ ユズリハ	交譲皮	葉, 樹皮	とうだいぐさ科	自生, 栽培	駆虫薬
※ ヨシ	蘆根	根茎	いね科	自生	健胃, 鎮吐薬
※ ヨモギ	芫葉	葉	きく科	自生	腹痛, 吐瀉, 止血
※ ヨコワサルオガセ		全草	さるおがせ科	自生	リトマス, 色素原料
毒※ ヨウシュチョウセンアサガオ	マンダラ葉	葉	なす科	自生	鎮痛, 鎮痙, 鎮咳
※ ヨメナ		全草	きく科	自生	利尿, 腫物, 悪瘡
△ ヨロイグサ	和白芷	根	せり科	自生又は栽培	感冒, 歯痛, 通経
※ リュウキュウヤブラン		根	ゆり科	自生	鎮咳, 解熱, 強壯, 栄養催乳
※ リュウノウギク		全草	きく科	自生	香料原料
※ リンゴ		果実	ばら科	植栽	強壯薬(貧血症)
※ リンドウ	龍胆	根茎, 根	りんどう科	自生	苦味健胃薬
※ レンギョウ	連翹	果実	もくせい科	植栽	るいれき, 疥癬, 腫物
毒※ レイジンソウ		根	きんぼうげ科	自生	(有毒)
※ ワサビ	山葵根	根茎	あぶらな科	自生又は栽培	香辛料
※ ワタ		根皮, 種子, 種子の毛	あおい科	栽培	通経, 陣痛促進薬, 催乳薬, 脱脂綿
※ ワラビ		根茎	うらぼし科	自生	でんぷん
※ ワレモコウ	地榆	根	ばら科	自生	収斂, 止血薬

備	考
	葉を乾燥したもの1日4g煎用するとぜんそくによい。食あたりに黒焼末をのむ。下痢，腹痛によい。葉の煎じ薬は利尿によい。葉を利尿剤として用いる。肝臓病の腹水によい。
煎剤とする。	
茎葉の生汁は止血によい。子宮出血に葉10gを煎じる。痔出血にドクダミ，ヨモギ各5g煎服。はれもの，腹痛，下痢に生汁を用う。冷え症にヨモギの座ぶとんを用いるとよい。	
冬期採取し乾燥する。	
マンダラヨウは喘息煙草を製するに用う。	
1日15gを煎用する。	
頭痛に5gを煎用する。煎じてのむと冷え症によい。浴用料として冷え症によい。	
ヤブランに準ず。1日10g煎用する。	
精油は香料として多少需用あり。	
果実よりリンゴエキス，リンゴチンキを製して用いる。	
苦味チンキを製す。	
疥せん，るいれきに内服。	
殆んど用いない。	
食慾催進及び防腐剤又は殺菌。	
新鮮な根を1日2g煎用すると通経薬。種子5gを煎剤は母乳の分泌催進。種子から綿実油をとる。	
食用又は粘料とする。	
止血，利尿に1日15g煎用する。	